

CAN-DO LIST に基づいた中学・高校での授業の取り組み例

大塚 有紗

1 はじめに

CEFR が注目されるようになり、学校現場においても CAN-DO LIST に基づいた指導を行うことで、生徒に身につけさせたい力を可視化することが奨励されている。しかし、CEFR そのものを日本で英語を学ぶ生徒に提示することは難易度や学習環境の違いから、分かりづらい部分も多い。私の勤務校では、生徒たちのレベルや学校独自の取り組みを生かした CAN-DO LIST を作成し、生徒に提示している。生徒が身につける事柄を具体的に理解し、意識することで学習効果が増大することが考えられるほか、教員間の指導目標共有にも大きな役割を担っている。この報告書では千代田区立九段中等教育学校英語科（以下、九段）の CAN-DO LIST について、またそれに基づいた中学・高校での授業の取り組みについて紹介する。

2 KUDAN CAN-DO LIST

中等教育学校として6年間の教育を行う上で、生徒にどのような力をつけさせるのか、見通しをもって授業を組み立てることが重要である。また、その生徒像を教員間で共有し、同じ目的意識を持ちながら授業に臨むことで、授業の質を維持することができる。卒業時における到達目標は次のとおりである。

- ・ 英語を通じて積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を身に付けている。
- ・ 4技能をバランスよく身に付け、場面に応じてコミュニケーションをとることができる。
- ・ 知識を深めたい分野について、英語を媒介として独学することができる。
- ・ 希望の進路を実現するために、大学入試等において必要な力を身に付けている。

これらの目標を達成するために、九段では CAN-DO LIST を作成し、科全体で共有している。4月の授業で生徒にも配布し、その年度末にどのようなことができるようになるのかを説明している。LIST には CEFR や英検、GTEC などの外部試験のスコアについても記述があるため、生徒も教員もそれぞれのグレードがどの程度の力を指すのかイメージしやすくなっている。また、九段では全ての授業について、教科担当者間で共通指導案を作成し、共有している。指導案も、この CAN-DO LIST の目標に基づく内容となる。

KUDAN CAN-DO LIST ではグレード1からグレード6プラスまで、7段階のグレード

が設定されている。基本的には学年を表す数字と同じ数字のグレードが1年間の目標となる。ただし、個人差を考慮し、全体の80%の生徒が達成できることを目標としている。一方、英語学習経験者なども少なくないことから、グレード6プラスを設けることで、上級英語学習者でも最後まで具体的な目標を持って学習に取り組むことができる。グレード1はCEFRのA1、グレード2はCEFRのA1~A2、グレード3はCEFRのA2、グレード4と5はCEFRのA2~B1、グレード6はCEFRのB1、グレード6プラスはCEFRのB1~B2、とそれぞれCEFRの基準でどのレベルにあたるかも記されている。

各グレードについては、技能別にCAN-DO Statementが示されている。さらに、その4技能を実生活に関わること、授業に関わること、学校行事や九段メソッドに関わることという3つの観点から捉えている。3つ目の観点には、各学年の行事や九段の英語授業や英語関連行事で扱う内容が反映されており、生徒がより具体的に目標を理解し、達成感を味わえるようになっている。年度末に、Statementの内容を達成しているかどうかのアンケート調査を実施し、80%以上の生徒が目標を達成できているかどうか確認している。また、その結果について、科で研修会を開き、分析をしている。特に80%に満たなかった項目については、改善案について意見交換を行う。アンケート調査の分析結果は、指導案作成にも生かされ、毎年、各学年の指導内容や方法が改良されていると感じている。

九段での取り組みは科全員の共通理解のもとに可能になるもので、それは必ずしもどの学校でもできることではない。特に中学生については週当たりの授業時数や少人数での授業が可能であることも恵まれた環境にあると言える。加えて、他のCAN-DOとの比較検討やCEFRや外部試験における目標の信頼性など、今後さらに改良すべき点もあるだろう。しかし、CAN-DOがあることで、生徒と教員が、明確な目標に向かって進んでいけること、その結果、英語を使える生徒を育てることに寄与することは間違いないだろう。

3 前期課程(中学生)の取り組み

次に、前期課程1年生の担当として、KUDAN CAN-DO LISTに基づいて行ってきたことについて紹介する。

前期課程1年生の目指すグレード1(CEFRのA1)の話すことには次のようなStatementがある。(資料1)

[S1-1]食べ物やスポーツなどの好き嫌いについて、即興で述べることができる。

[S2-1]English Showerなどで、初対面の相手にあいさつや簡単な自己紹介を即興でできる。

[S3-1]人物や事物について、準備をすれば、数文程度のスピーチをすることができる。

[S4-1]ごく身近なことを相手に質問したり、質問されたことに対し適切に応答することができる。

このようなスピーキングの力を身につけさせるため、授業の帯活動として7月から生徒

同士による Q&A 活動（本多、2009）という帯活動を取り入れた。これはある質問に対する答え方を定着させるためのものである。ワークシートに 20 個の質問文を用意し、生徒はペアで質問する側と答える側になり会話する。答える側になったときは、質問に対する答えだけでなく、もう一文付け加えて話すように指示することで、話を続ける素地を作ることができる。（本多、2009）今年度は 4 枚のワークシートを用い、計 80 個の質問文に対する答えと追加の 1 文を言う形式で、約 3 ケ月間練習させた。1 枚目は be 動詞を用いた疑問文と一般動詞を用いた疑問文、2 枚目には how や what など疑問詞を用いた疑問文を追加、3 枚目は三単現を用いた疑問文を追加というように、既習の文法事項を復習できるように作成した。その後、ALT 教員を面接官に、一対一のインタビューテストを行った。テストでは Q&A 活動のワークシートにあった質問文の中から 5 つを選び、それぞれ適当に答えられるかを測った。資料 2 は ALT が面接の際に使用したスクリプトである。試験後、生徒たちには自己評価も行わせることで、これまでの活動の振り返りや今後身につけたい力を明確に持たせるようにした。（資料 3、参照）多くの生徒は大変緊張していたが、テストが始まると落ち着いていつも通りに答えられたとのことであった。また、うまく答えられなかった箇所や答え方を間違えた部分を振り返り、その後の帯活動の中でしっかり身につけられるよう練習したいと感想を書いていた。

その後、11 月以降の帯活動として、ペアでチャットを行わせた。本多（2009）に説明されている通り、チャット的话题を示す「最初の文」を提示し、生徒同士で 1 分間会話させる。同じ話題について、異なるパートナーと 3 回会話させた。毎回、評価のポイントを 3 つ設定し、会話の技術が意識的に身につくようにした。例えばアイコンタクトやあいづちなどである。そして、それらができたかどうかを振り返り用のワークシートに自己評価を記入させた。またワークシートにはパートナーの話した内容をレポートする欄も設けた。レポートすることで三人称の英文を書く練習にもなっている。（本多、2009）12 月以降はボイスレコーダーで会話を録音させ、生徒が自分自身の発音を確認したり、会話の内容を確認したりすることで、よりよい振り返りができるようにした。2 月には 2 回目のインタビューテストを予定している。ALT との一対一で、チャット活動を通して身につけた会話の技術を測る機会としたいと考えている。また、そのテスト以降は、さらに自然な会話が、即興でできるよう、帯活動の内容を発展させていく予定である。

4 後期課程(高校生)の取り組み

次に、後期課程 1 年生の担当として、KUDAN CAN-DO LIST に基づいて行ってきたことについて紹介する。

後期課程 1 年生の目指すグレード 4(CEFR の A2~B1)には以下の Statement がある。

[W3-4]授業で読んだ文章の要点と感想を、分かりやすい流れで書くことができる。

これに加えて、前年度後期課程の 2 年生を担当した際に、グレード 5 の目標を達成する

ことが難しいことを実感したことから、grade5の目標も見据えて指導したいと考えた。グレード5のStatementは次の通りである。

[W3-5]自分の関心のあることについて、3部構成（序論、本論、結論）のやや長めの文章を書くことができる。

そこで、上記2つを達成させるべく、授業で読んだ文章をもとに、3部構成の文章を書く練習を取り入れた。教科書で読んだ文章を参考にしながら、意見を書く手順を進めた。例えば、肥満の問題を解決するためにはジャンクフードの広告を廃止すべきだと訴える人たちについて書かれた本文を読み、ファストフードの広告を廃止すべきか否かというテーマで文章を書くといった流れである。週に1時間、生徒たちには3部構成の文章を書くよう、また10分間の制限時間を設けて書かせた。限られた時間の中で、一定量の文章を、分かりやすい言葉を使ってまとめることができれば、高校2、3年生の英語学習、ひいては大学受験に向けた書く力の育成においても大切だと考えたためである。授業中に書かせた文章はその場で回収し、ネイティブチェックを経て、本人に返却し、清書を行わせた。そのような活動を4月から10月頃まで続けた。生徒たちは書くことに少しずつ慣れていったが、説得力のある文章にすることは難しかった。そこで、10月頃からはさらにより文章が洗練されたものになるよう指導するとともに（資料4）、文章量も増やすよう促した。清書させた文章はペアワークで読み合わせ、生徒同士で意見を交換させた。ワークシート（資料5）には3部構成に加えて、展開部分で挙げる理由について必ず具体例などを含めて書けるよう、枠を設けた。4月当初、毎週のライティングタスクに嫌がる生徒もいたが、だんだんと書くことに慣れ、最終的には多くの生徒が150～200語の文章を制限時間内に仕上げることができるようになっていた。

また、この1年間の練習はのちに大学に進学した生徒たちから反響があった。大学で課される様々なレポート、授業中のディスカッションなどに、ここで身に付けた力が役立っているという。限られた時間の中で、できるだけ多くの視点で物事を考える。また、それをまとめた英文におこすことができるようになり、他の学生ほど苦勞を感じずに課題に取り組んでいるとのことであった。

後期課程の生徒がライティングの力を伸ばしていくことは、なかなか難しい。外部試験の結果を見ても、ライティングの力だけが、なかなか思うように改善されないことが多かった。しかし、このような活動を通して、生徒自身が文章を構成したり、様々な表現を用いて書いたりすることに楽しさを覚え、練習を積むことで、よりよい書き手を育てることに繋がったように思う。また、他の技能や教科書の内容などに関連付けて取り組ませることで、相乗効果を狙うことができるように感じた。さらに、他の生徒の書いた文章を、良い文章のポイントに留意しながら読むことで、説得力のある文章を見極める目も育成できたと考える。

【資料1】 KUDAN CAN-DOリスト (2016-2017)

技能	学年(グレード) CEFRとの関連 項目	第1学年(学年末)	第2学年(学年末)	第3学年(学年末)
		G1	G2	G3
		A1	A1-A2	A2
Listening 聞くこと	実生活に関わること	[L1-1]授業における簡単な指示を聞いて、適切に応じることができる。	[L1-2]ゆっくり話してもらえば、簡単な道案内を聞いて理解することができる。	[L1-3]学校などの施設や乗り物などで、簡単なアナウンスを聞いて理解することができる。
	本校独自の行事やKudan Methodに関すること	[L2-1]English Showerで、講師の先生による簡単な自己紹介を聞いて、概ね理解することができる。	[L2-2]英語合宿で、ゆっくり話してもらえば、講師の先生の英語を概ね理解することができる。	[L2-3]海外研修旅行で、ホストファミリーが自分に向けて話す内容を概ね理解することができる。
	授業に関すること	[L3-1]人やものについての説明を、簡単な語句で話してもらえば、理解することができる。	[L3-2]教科書の内容や活動のやり方の説明を、ゆっくり話してもらえば理解することができる。	[L3-3]教科書の内容や活動のやり方の説明を、自然なスピードで話されても理解することができる。
Speaking 話すこと	実生活に関わること	[S1-1]食べ物やスポーツなどの好き嫌いについて、即興で述べることができる。	[S1-2]物事の好き嫌いとその理由を即興で述べることができる。	[S1-3]簡単な表現や決まり文句を使って、何かに誘ったり、会う日時や場所を決めたりすることができる。
	本校独自の行事やKudan Methodに関すること	[S2-1]English Showerなどで、初対面の相手にあいさつや簡単な自己紹介を即興でできる。	[S2-2]English Showerや英語合宿などで、簡単な質問に適切に答えることができる。	[S2-3]海外研修旅行で、日本や学校、家族などに関する基本的なことを相手に伝えることができる。
	授業に関すること(発表)	[S3-1]人物や事物について、準備をすれば、数文程度のスピーチをすることができる。	[S3-2]教科書の内容の一部や自分が得た情報を自分の言葉で他の人に伝えることができる。	[S3-3]商品やアンケート調査結果などを説明するプレゼンテーションができる。
	授業に関すること(会話)	[S4-1]ごく身近なことを相手に質問したり、質問されたことに対し適切に応答することができる。	[S4-2]ごく身近な話題の会話(チャット)を友だちと協力しながら続けることができる。	[S4-3]相手の話す内容に応じて適切な相づちを打ったり、分らないところを聞き返したりすることができる。
Reading 読むこと	実生活に関わること	[R1-1]公共の施設などにある簡単な表示を見て、その意味が理解できる。	[R1-2]Eメール等の短いメッセージを、辞書を使いながら読み理解できる。	[R1-3]海外の学校に掲示されている注意事項やお知らせを読み概ね理解できる。
	本校独自の行事やKudan Methodに関すること	[R2-1]本校多読用図書の本を、知っている単語や絵などから内容を推察して、楽しみながら読むことができる。	[R2-2]英語合宿で使用される教材を読んで、指示文や概要が理解できる。	[R2-3]海外研修旅行で用いられるテキストを、辞書を使えば理解することができる。
	授業に関すること	[R3-1]自分や家族を紹介した手紙などの文章を、辞書を用いずに読んで、内容を理解することができる。	[R3-2]簡単な語を用いて書かれた短い説明文や物語を読んで概要を理解することができる。	[R3-3]中学生用に書かれた長めの英文をある程度の速さで読んで理解することができる。 【目安:1分間に80語以上】
Writing 書くこと	実生活に関わること	[W1-1]入国カードなどに、日付、自分の名前、国籍、生年月日などを書くことができる。	[W1-2]数文程度の簡単な日記を書くことができる。	[W1-3]簡単な表現を用いて、感謝や謝罪を表したメールや手紙を書くことができる。
	本校独自の行事やKudan Methodに関すること	[W2-1]手本を参考にして、簡単な絵はがきやカードを書くことができる。	[W2-2]長期休業中や英語合宿中の自分の経験や体験をポスターや新聞などの形式で書くことができる。	[W2-3]辞書を使えば、ホストファミリーに伝えたいことをEメールや手紙に書くことができる。
	授業に関すること	[W3-1]数文程度の簡単なスキットの原稿を作成することができる。	[W3-2]自己紹介や自分の好きなものについて、数文程度で相手にわかりやすく書くことができる。	[W3-3]授業で読んだ文章の要点を、その内容を知らない人に分かり易く書くことができる。

外部の検定試験における目標

Listening	GTEC for STUDENTS (リスニング)の目標スコア	120点以上取ることができる。 【グレード1】	160点以上取ることができる。 【グレード3】	180点以上取ることができる。 【グレード4】
Speaking	英検の面接テストの目標スコア	英検3級の面接テストのNo. 2からNo. 5を行い、40%以上の得点を取ることができる。	英検3級の面接テストのNo. 2からNo. 5を行い、70%以上の得点を取ることができる。	英検準2級の面接テストのNo. 2からNo. 5を行い、60%以上の得点を取ることができる。
Reading	GTEC for STUDENTS (リーディング)の目標スコア	85点以上取ることができる。 【グレード1】	130点以上取ることができる。 【グレード2】	170点以上取ることができる。 【グレード4】
Writing	GTEC for STUDENTS (ライティング)の目標スコア	75点以上取ることができる。 【グレード2】	90点以上取ることができる。 【グレード3】	100点以上取ることができる。 【グレード4】
総合的な英語力 検定試験の目標	英検 ()内は達成率	4級(80%)	3級(60%)	準2級(60%)
	GTEC for STUDENTS 平均点	280【グレード1】	430【グレード3】	510【グレード4】

第4学年(学年末)	第5学年(学年末)	第6学年(卒業時)	
G4	G5	G6	G6プラス
A2-B1	A2-B1	B1	B1-B2
[L1-4]買い物で、値段や基本的な使用方法などの商品説明を聞いて理解することができる。	[L1-5]簡単な内容であれば、英語で行われる研修等の内容を概ね理解することができる。	[L1-6]内容について知識のある映画やテレビ番組を見て、画面の情報を助けとしながら、その概要を理解することができる。	[L1-6+]内容についてあまり知識のない映画やニュース番組を見て、推測しながら概要を理解することができる。
[L2-4]学習発表会において、スピーチなどの英語による発表の概要を理解することができる。	[L2-5]English Showerや英語による講演を聞いて、身近な話題であればその概要が理解できる。	[L2-6]ディスカッションやディベートなどで、自分の次の発言内容を考えながら聞くことができる。	[L2-6+]English Showerや英語による講演を聞いて、内容をよく理解できる。
[L3-4]ある程度の知識をもっている物語や事物についての説明を、簡単な語句で話してもらえば概要を理解することができる。	[L3-5]ある程度の知識をもっている事物についての説明を聞いて、概ね理解することができる。	[L3-6]話題について知識をもっていれば、長い話であっても、内容を概ね理解することができる。	[L3-6+]話題についての知識があまりなくても、会話や議論の流れを理解することができる。
[S1-4]店やレストランなどで、品物を頼んだり、商品やメニューの説明を求めた会話をするすることができる。	[S1-5]旅行やイベントなど印象に残った出来事について、相手に分かりやすく話すことができる。	[S1-6]自分の学校や地域のこと、日本の習慣や文化などを相手に分かるように話すことができる。	[S1-6+]店、レストラン、公共の施設などで、問題点など自分の用件を伝え、交渉をして解決することができる。
[S2-4]準備をすれば、教科書で学んだことについて、その概略と感想を述べることができる。	[S2-5]準備を行った上で、相手に分かりやすくディベートの立論スピーチをすることができる。	[S2-6]準備をすれば、身近な話題についてディスカッションやディベートができる。	[S2-6+]社会的な問題について、ディスカッションやディベートができる。
[S3-4]簡単なことであれば、即興で自分の意見を述べたり、何かの説明をしたりすることができる。	[S3-5]自分の夢や希望を、その理由を含めて順序立てて詳しく説明することができる。	[S3-6]図表や写真などを有効に利用し、分かりやすいプレゼンテーションをすることができる。	[S3-6+]情報量の多いスピーチを、分かりやすい構成で、聞き手をひきつけながら行うことができる。
[S4-4]身近な話題の会話であれば、相手の反応や質問に応じて説明を補いながら、話を続けることができる。	[S4-5]話し合いをする際、話題に合わせて話したり、自分の意志を述べたりすることができる。	[S4-6]自分の知らないことを言われても、質問するなど適切に対処しながら会話を続けることができる。	[S4-6+]自分が発表したことに相手から質問された際、相手の持っている情報量に合わせて適切に説明することができる。
[R1-4]広告やパンフレットを読んで、値段や特徴などの必要な情報を探して、その内容を理解することができる。	[R1-5]簡単な英語で書かれていれば、旅行ガイドブックなど実用的な本の内容が理解できる。	[R1-6]インターネット上の英語で書かれているサイトから自分の知りたい情報を探し、辞書を使えば、その要点が理解できる。	[R1-6+]一般向けに書かれた英字新聞の興味のある記事を、辞書を多用しないで読み理解できる。
[R2-4]本校多読用図書の簡単な語句で書かれている本であれば、知っている語句から内容を推察しながら読むことができる。	[R2-5]学習を目的として書かれた新聞や雑誌の記事を、辞書を使えば、要点を理解することができる。	[R2-6]学習を目的として書かれた新聞や雑誌の記事を、辞書を多用しないで、要点を理解することができる。	[R2-6+]学校にある副読本や小説を、辞書を使わずに、楽しみながら読むことができる。
[R3-4]コミュニケーション英語Ⅰの教科書本文を、辞書を使わなくても、初見で読んで概要を理解することができる。 【目安：1分間に80語以上】	[R3-5]コミュニケーション英語Ⅱの教科書本文を、初見であっても、大事なところをとらえながら、読み進めることができる。 【目安：1分間に90語以上】	[R3-6]高校生用に書かれたさまざまなタイプの文章をある程度の速さで読んで、要点を理解することができる。 【目安：1分間に120語以上】	[R3-6+]読む目的により、読み方を変えることができ、かなりの速さで読むことができる。 【目安：1分間に150語以上】
[W1-4]依頼したり誘ったりする個人的なメールや手紙を書くことができる。	[W1-5]その日の出来事や今後の予定を記した個人的なメールを書くことができる。	[W1-6]相手を説得するためのメールや手紙を書くことができる。	[W1-6+]新聞や雑誌などに自分の意見を投稿できる。
[W2-4]日本の文化や慣習などについて、辞書を使えば、書くことができる。	[W2-5]関西研修旅行またはこれまでに行った場所について、オリジナルの観光説明書を書くことができる。	[W2-6]自分が読んだ文章の要点を、辞書を使わずに、その内容を知らない読み手にも分かりやすく書くことができる。	[W2-6+]興味のあることを小論文にまとめたり、物語文を創作して書くことができる。
[W3-4]授業で読んだ文章の要点と感想を、分かりやすい流れで書くことができる。	[W3-5]自分の関心のあることについて、3部構成(序論、本論、結論)のやや長めの文章を書くことができる。	[W3-6]自分の関心のある社会の出来事について、必要に応じて辞書を使いながら、読み手に分かりやすく書くことができる。	[W3-6+]社会問題について、読み手を意識した説得力のある文章を書くことができる。
200点以上取ることができる。 【グレード5】	210点以上取ることができる。 【グレード5】	220点以上取ることができる。 【グレード6】	280点以上取ることができる。 【グレード7】
英検2級の面接テストのNo. 2からNo. 4を行い、60%以上の得点を取ることができる。	英検準1級の面接テストのナレーションおよびNo. 1からNo. 4を行い、50%以上の得点を取ることができる。	英検準1級の面接テストのナレーションおよびNo. 1からNo. 4を行い、70%以上の得点を取ることができる。	英検準1級の面接テストのナレーションおよびNo. 1からNo. 4を行い、90%以上の得点を取ることができる。
175点以上取ることができる。 【グレード4】	195点以上取ることができる。 【グレード5】	215点以上取ることができる。 【グレード5】	270点以上取ることができる。 【グレード7】
105点以上取ることができる。 【グレード4】	115点以上取ることができる。 【グレード4】	125点以上取ることができる。 【グレード4】	160点以上取ることができる。 【グレード6】
準2級(80%) 2級(40%)	2級(60%)	2級(80%) 準1級(10%)	
550【グレード5】	580【グレード5】	600【グレード5】	(720【グレード7】)

【資料 2】

Sept. 7th 2016

1st graders speaking test

Interview 1

S: Hello, Brent / Evelyn.

T: Hello. May I have your name, please?

S: My name is S1.

T: How are you, S1?

S: I'm good.

T: Can I have your evaluation sheet?

S: Here you are.

T: Thank you. Please take a seat.

Now, I will ask you some questions. Relax and answer the questions in English.

1. Are you from Kumamoto?
2. Do you have a dog?
3. What is your favorite subject?
4. Does Ms. Matsubara sing well?
5. What do you want for your birthday?

【資料3】

EA 2016 1st grade

Speaking Test Self-Evaluation

Name: _____ Class: _____ Number: _____ Date: _____

① 以下の項目について、5段階で自己評価してみよう。(5=とてもよくできた)

1. 自然な笑顔で、適切にアイコンタクトをとりながら話すことができた。	5 ・ 4 ・ 3 ・ 2 ・ 1
2. 相手に聞こえる声の大きさを明瞭に話すことができた。	5 ・ 4 ・ 3 ・ 2 ・ 1
3. 正しい発音で会話できた。	5 ・ 4 ・ 3 ・ 2 ・ 1
4. 不自然な沈黙（3秒以上）を作らずに話すことができた。	5 ・ 4 ・ 3 ・ 2 ・ 1
5. 質問に対して答える際、“Yes, I do.” “No, it isn’t.” “Yes, she does.” など正しい形を使うことができた。	5 ・ 4 ・ 3 ・ 2 ・ 1
6. 質問に対する答えに1文追加して会話することができた。	5 ・ 4 ・ 3 ・ 2 ・ 1

② よくできた点、がんばった点を挙げてみよう。

③ あまりよくできなかった点、これから改善したい点を挙げてみよう。

④ 今日のテストについて感想

【資料 4】

KUDAN ENGLISH

4 年生 (7 回生) 英語科通信 Vol. 126



How to rewrite your EE essays

次の手順に従って、rewriting を完成させましょう。次回のレッスンからは、rewriting をクラスメイトと交換して読んでもらうこととなりますので、忘れずに持ってきてください。

1 Be on topic!

Essay のテーマ(質問) と Introduction を読み直してください。質問を正しく理解し、それに答えることができますか? 答えていない、または明確でないと感じたら、書き直しや追加をしましょう。

2 Be well-organized!

Introduction / body / conclusion という 3 つの大きなまとまりを作ることができますか? 授業中に時間が足りず、書き終えることができなかったという場合には、付け足してください。Body の理由は First / Second などの単語を使って書き始めると、まとまりがより分かりやすくなるでしょう。

3 Have clear ideas!

Body の中には少なくとも 2 つの理由が書かれていますか? また、それぞれの理由には supporting sentences が続いていますか? rewriting では supporting sentences までしっかりと完成させてください。

4 Be sophisticated!

例えば、I like ~ because So I like them very much. のように、同じ単語(ここでは like) を何度も繰り返し使ったり、and / because / but / so, のような語を文頭で使ったりしていませんか。もし使っていたら、以下の表や辞書(できれば類語辞典)を活用して書き換えましょう。

×	You can use these words instead! (大文字で始まっている表現は文頭で使えます。)
And	In addition / Furthermore / Additionally / Besides / also / as well
Because	This is because / Since / As / Due to
But	However / Nevertheless / Even though / Although / Despite
So	For this(that) reason / Therefore / That's why / Thus / Hence

5 No mistake?

rewriting 全体を読み直し、簡単な間違いがないか確認しましょう。スペリング、時制など、自分で気が付ける小さな間違いは自分で直してやること。

【資料 5】

English Expression I Lesson 16 Science and Technology - Do you agree or disagree with fish farming?

Date: th Dec, 2013

Introduction
Reason1
Supporting ideas/ concrete examples for reason 1
Reason2
Supporting ideas/ concrete examples for reason 2
Reason3
Supporting ideas/ concrete examples for reason 3
Conclusion
() words

Class _____ No. _____ Name _____

Rewriting

Introduction
Reason1
Supporting ideas/ concrete examples for reason 1
Reason2
Supporting ideas/ concrete examples for reason 2
Reason3
Supporting ideas/ concrete examples for reason 3
Conclusion
() words

参考文献

本多敏幸. (2009). 『英語力がぐんぐん伸びる！コミュニケーション・タイム 13の帯活動 & ワークシート』 明治図書.